しもつがの「まなびのWA！」

令和８年２月９日

「WA！」には、輪、和、話、環などの意味合いを込め、管内の学校や教職員のつながり、温かい交流、情報交換の広がりなどをイメージしています。

特別第６号

発行：栃木県教育委員会事務局下都賀教育事務所

河　原　社会教育主事　のお薦めする本

①『一年一組　せんせい　あのね』　選　鹿島　和夫　絵　ヨシタケ　シンスケ　理論社



原著は神戸の元小学校教諭、鹿島和夫先生が担任をしていた小学一年生との交換日記「あのね帳」の内容をまとめた有名な本です。子どもたちが「せんせい、あのね」と、日常の出来事や思ったことを語りかけるように書き綴った、あのノート。小学校１年生の担任をしたことのある方には、なじみ深いものでしょう。この本の中には、１年生の何気ない日常や素直な気持ちが散りばめられています。そして、そのかわいらしい文章に添えられた、絵本作家ヨシタケシンスケさんの絶妙なイラスト。この２つが揃うだけで、子どもたちと関わる仕事って素敵だな、と心底思える一冊です。

②『ブロードキャスト』湊　かなえ　ＫＡＤＯＫＡＷＡ／角川文庫



湊かなえ作品と言えば、「イヤミス（読後に嫌な気持ちになるミステリー）」。しかし、そんな湊かなえさんが書いた、「これぞ青春！」と感じることができる作品がこの「ブロードキャスト」です。主人公は中学時代、陸上部に所属し、駅伝で全国大会を目指しますが、残念ながら出場はできません。陸上の名門高校に入学しますが、ある理由から陸上部に入ることを諦め、友だちに誘われるがまま、なんと放送部に入部します。そんな主人公が、陸上への未練をもちながら、周りの影響を受け、新たな新境地へとのめり込んでいく様子が、とても魅力的です。一度しかない学生時代を有意義に過ごしてほしいと子どもたちに伝えたい一冊です。

③『ナミヤ雑貨店の奇蹟』東野　圭吾　ＫＡＤＯＫＡＷＡ／角川文庫



東野圭吾作品と言えば、やはりミステリー。もちろんこの「ナミヤ雑貨店の奇跡」も、ミステリー要素がないわけではありませんが、読んだ後になんとも温かい気持ちになる、不思議な作品です。　あらゆる悩み相談に乗る不思議なナミヤ雑貨店。そこに集まるのは、人生に迷った様々な人間…。張り巡らされた伏線が、「ナミヤ雑貨店」を中心に回収されていく様子は、「本を読んで良かった」と必ず思える作品です。「読書をしたいけど、どんな本を選んだらいいの？」と迷っている方には、この作品をオススメします。

石川（孝）管理主事　のお薦めする本

①　アニメ・マンガ　『宇宙兄弟』　小山宙哉　　講談社



『宇宙兄弟』は、小山宙哉さんによる漫画で、兄弟の絆と夢を追いかける姿を描いた感動的な作品です。主人公の南波六太（ムッタ）と弟の日々人（ヒビト）は、幼い頃に「宇宙飛行士になる」という夢を誓い合います。ムッタは一度夢を諦めかけますが、弟の成功を見て再び宇宙飛行士を目指します。

登場人物それぞれが大切に描かれていて、夢を追い続ける姿勢に勇気が出ます。そして、忘れかけていた純粋な気もちを思い起こさせてくれます。ムッタの行いに自分を重ね、涙腺が緩む瞬間が定期的に訪れます。

「本気でやった場合に限るよ。本気の失敗には価値がある。」「グーみたいな奴がいて、チョキみたいな奴もいて、パーみたいな奴もいる。誰が一番強いか答えを知ってる奴はいるか？」『宇宙兄弟』を見た人それぞれに刺さる言葉、印象に残る場面があると思います。

夢の大切さや素晴らしさ、家族の想い、人間関係の深さ、宇宙という未知なるものへの興味や関心、様々な視点でどの世代にもお薦めしたい作品です。

②　『NASA より宇宙に近い町工場』　　植松　努　　ディスカヴァー・トゥエンティワン



『NASA より宇宙に近い町工場』は、著者である植松努さんの実体験をもとに夢を追いかける大切さを伝えています。植松さんは北海道赤平市の小さな町工場を経営しながら、宇宙ロケットの開発に取り組み、彼がどのようにして夢を実現してきたかを描いています。

本の中で植松さんは、「どうせ無理」という言葉が、子どもたちの夢と希望を奪う言葉であると説き、それを「だったらこうしてみたら？」に変えることで、新たな道を切り拓きました。

大人が忘れがちな、「夢が力になること」を植松努さんはまっすぐな心で説いてくれます。少し心が疲れたとき手に取ってみてください。また、時間が無い方は、動画サイトでも講演の様子を見ることができます。本の内容をもとに、ユーモアを交えとても聞きやすい講演です。

「思うは招く」　先生方や高学年児童・生徒のみなさんにお薦めしたい動画の１つです。ぜひ１度御覧ください。

③　ドラマ『半沢直樹』池井戸潤　著（原作）

『半沢直樹』は、池井戸潤の小説を原作としたテレビドラマで、銀行員の半沢直樹が主人公です。不正や権力に立ち向かい、「やられたらやり返す、倍返しだ！」という名セリフで知られています。内容は面白く、言葉にインパクトがあるのですが、私が心に残ったのはそこではありません。

「どんな仕事をしてもいいが、人とのつながりは大事にせなあかん。ロボットみたいな仕事はするなよ。」半沢直樹の父の回想シーンでは、何度もこの言葉が流れます。

私も、人とのつながりを大切にして仕事をしなければいけないなと、自分の振る舞いや言葉かけを振り返るきっかけになりました。毎日学校では様々なことが起こると思いますが、子どもたちに人としての温かさが伝わるような関わりをしていきたいものですね。